
人権教育の観点を明確にした授業づくり（道徳）

<実践例 小学校第6学年 道徳 「かたよらない心」>

1. 指導にあたって

(1) 題材について

高学年になると児童一人一人の個性や特性がはっきりしてきて、スポーツが得意、芸術分野が得意など、個性が輝く子どもが出てくる。仲間の個性を尊重し、お互いの良さを認め合うことができるようになり、それにあこがれを持ち、自分もそのようになりたいとがんばりたいという気持ちをもつ子どもが出てくる。しかし、得意なものが多い児童は不得意なものが多い児童に対して優越感をもったり、「あの子は〇〇な子だ。」という決めつけた見方をしたりする児童も出てきてしまうことがある。

また、この年代には仲間意識が高まり、皆で協力して取り組むようになってくる。野外学習、修学旅行、運動会という行事に団結して取組み、一人一人の大きな成長だけでなく、学級全体の高まりを見せるようになってくる。一方で、自分に甘く、仲間に対しては厳しく接する子どもが出てくる。

一人一人が輝き、協力して大きく成長するかげで、友達同士による力関係が生まれたり、優越感が芽生えたりし、上下関係ができ、それらに左右されて正しいことが言えない場合もでてくる。このため、同じ事をしていても、特定の子が注意をされたり、特定の子の誤った行動が見逃されたりすることもある。これらは、いじめにつながる重大な人権の侵害ととらえることができる。

子どもたちの間でしばしば飛び交ううわさは、人間関係の序列化、決めつけた見方などの要因となるものである。うわさを鵜呑みにしてしまったり、それまでの人間関係の影響を受けたりして、公平・公正な判断や正しい行動ができないことがある。

本実践で使用した資料は、子どもたちの間でうわさが広まり、学級の中に仲間はずれが生じていく状況で、正しいことを知っているのに言いだせないでいる主人公を通して、自分にある心の弱さを見つめていくものである。うわさ話はちがうと思っていながら言い出せなかった主人公の心にある仲間との力関係、嫉妬心、思い込み、無関心などの思いは、子どもたちの心の中に見られるものであり、この思いを表出させることから、その偏った見方が差別につながっていくことに気付かせたい。

正義を貫く順子の落ち着いた態度や正しい主張を聞いて、順子のすばらしさや自分のいたらなさ気付いた主人公。知っている事実をもとに合理的な判断をし、次は自分も行動に移そうと決心した主人公のすばらしさにも気づかせたい。

(2) 留意点

運動会など、学級づくりの上で主要な行事を終えた時期に指導に当たりたい。この時期、子どもたちは、目標に向かって心をついて取り組み、学級としての財産を作り上げた達成感や、成就感、所属感を味わい、仲間意識が高まっている。より好ましい人間関係を構築しようとするこの時期に、うわさに惑わされず公平・公正に判断して正しく行動することが大切であることを指導することは、時宜を得ていると考える。

(人権教育との関わりから)

森川くんの正しくないうわさ話を聞いたり、仲間はずれになってどんどん無口になっていく森川くんを見たりしても、真実を言い出せない主人公「ぼく」の心の弱さを上下関係、思い込み、追従、自己中心性、無関心、傍観、責任転嫁などにとらえ、これらの心の弱さは誰もがもっているものであり、自分の心の中にも存在することに気付かせるようにしたい。

いつもはおとなしい順子さんの発言を聞いて、自分の心の中にあつた偏見や差別を乗り越え、自分も発言しなければならぬと決心した「ぼく」のすばらしさを感じ取ることで、正しい事実をもとに合理的に判断することの大切さに気付かせるとともに正しい判断で行動しようとする意欲を高めたい。

2. 実践

(1) 本時のねらい

決めつけた見方をせず、正しいことを信じて行動することが、公正な社会を築くことに気付き、誰に対しても偏見をもつことなく、正しい事実をもとに合理的な判断をし、正義を貫こうとする心情を育てる。

(2) 展開の実際

	ねらい	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助および留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時考えたい道徳的価値の方向をつかませ、資料への興味をもたせる。 	<p>1 「うわさ」についてどのようなイメージをもっているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりしないもの ・どんどん広がっていくもの ・本当かうそかわからないもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験とつなげて考えさせることで価値への意識付けを行う。
展開前段	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の概要をつかみ、本時で考えたいことを明確にする。 ・うわさ話はおかしいと思いつつも、仲間との言い争いを避けるため、正しいことが言い出せず、迷っている「ぼく」の弱さに気付かせる。 ・さらに事態は悪化していき、自分を責めつつも、正しいと信じている要因を考えさせる。 ・自分の心の中にある弱さを乗り越えて、自分も発言しなければならぬと決心した「ぼく」のすばらしさに気付かせる。 	<p>2 資料「森川君のうわさ」を読んで、話し合う。</p> <p>○主人公について心に残ったところを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言おうと思っても言えなかったぼくの気持ちがよくわかる。 ・順子さんの話を聞いてぼくも発言しようとしたところが素晴らしいと思う。 <p>○森川君は器用なんだと知っていたのにだまっていた時、「ぼく」はどんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言い争いになるのはめんどうだな。 ・石山君に言うとはくまで攻撃されるかも。ちょっとこわいなあ。(上下関係) ・もしかしたらみんなの言う通りかもしれない。(思い込み、追従) <p>○仲間はずれにされ、無口になっていく森川君を見て、「ぼく」はどんな気持ちになっていったらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森川君、ごめん。 ・あの時、ぼくがはっきりと言えばよかった。 ・今さら言っても、自分も仲間はずれにされそうだ。(自己中心性) ・どうせぼくには関係ない。わざわざ言い争う必要はない。(無関心、傍観) ・このまま黙っていればそのうちうわさもなくなるだろう。自然になれればいい。(責任転嫁) <p>○順子さんの発言が終わったら自分も発言しなければならぬと思ったのは、「ぼく」の心の中にどんな気持ちが出てきたからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずるかった自分がはずかしい。 ・順子さんはりっぱだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><深めの発問> 「ぼく」はどんなことが恥ずかしかったのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもはおとなしい順子さんがみんなの前で話しているのに対して、今までだまっていたことが恥ずかしい。順子さんのように自分も発言しよう。(順子さんに対して) ・いやな思いをして無口になっていく森川君に対して何もしなかったことが恥ずかしい。森川君を助けなければならぬ。(森川君に対して) ・自分も事実を知っているのに本当のことを言えずにいたことが恥ずかしい。何もしなかった自分は森川君に対していじめをしていたのと同じかもしれない。やっぱり仲間はずれはだめだ。本当のことを言わなければならぬ。(自分自身に対して) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の迷っているところとすばらしいところを交流して、場面の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人権教育の観点 <育てたい力>認識力 仲間との人間関係や自己中心的な思いから、うわさ話はちがうと知っていながら本当のことを言い出せなかった主人公の行為は誰もがもっている心の弱さであることに気付く。 <そのための手立て> 「どんなことがめんどうだと思ったのか。」「2学期のうわさの時言えなかったのはどうしてか。」という問い返しをし、言い出せなかったぼくの心の中にあるいろいろな弱さの要因を明らかにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・深めの発問をすることで、自分の至らなさに気づき、自分で弱さを乗り越えようとしているすばらしさにつなげてきたい。 ・「自分にも同じようなことはなかったか。」と問いかけ、主人公の姿から自己の生き方をみつめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人権教育の観点 <育てたい力>自己啓発力 事実を言い出せなかった自分の弱さを乗り越え、正しいことを伝えようとしている主人公のように、自分も正確な事実をもとに正しい判断をしていこうとする意欲を高める。 <そのための手立て> 主人公から学んだことで、これからの自分のよりよい生き方を見つめさせる。</p> </div>
展開後段	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自己の生き方を振り返り、これからのよりよい生き方を考えさせ、価値の内面化を図る。 	<p>3 自分の生活に立ち返る。</p> <p>○今日の主人公から学んだことで、自分の生活を見つめ直してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うわさに左右されず、本当のことを伝えていくことの大切さが本当によく分かった。 ・事実を確かめて判断し、誰にでも同じように正しいことを言っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も正確な事実をもとに正しい判断をしていこうとする意欲を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><そのための手立て> 主人公から学んだことで、これからの自分のよりよい生き方を見つめさせる。</p> </div>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい事実をもとに合理的に判断することの大切さに気付かせる。 	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	

3. 成果と課題

- 展開前段の「森川君が器用なことを知っていたのに黙っていた」ぼくの気持ちや「仲間はずれにされ、無口になっていく森川君を見ていた」ぼくの気持ちを考える場面では、主な発問に加えて、「どんなことが面倒だったのか。」などの問い返しの発問を行ったことで、子どもたちは自分を振り返り、心の弱さが自分の心にも存在することに気付き、素直に発言することができた。
- 主発問に対して、子どもたちは順子さんの正義感あふれる行動に対するあこがれだけでなく、自分もこのように行動したいという気持ちをもたせることができた。
- 次第に仲間はずれにされていく森川君の辛く悲しい気持ちを推察したり、その原因が主人公にもあることを理解したりした上で、主人公が真実を知りながらうわさを是正しようとしなかった理由となる心の弱さについて、自分の気持ちを投影しながら語ることができた。
- 子どもたち一人一人に、自分の心の中には弱さが複合して存在していることに気付かせるなど、より深く自分を見つめさせるために、もう一押しするための手立てを講じる必要がある。